

優秀賞

(岩手県知事賞)

水を生かす。水で生きる。

盛岡市立上田中学校

三年 芥川 雄哉

「水とは何か」と考えるとき、造作なく答えを出すことは、多くの人にとつて難しいことだろう。少なくとも、僕にはできなかつた。

けれども昨年、中学校での課外活動の一環である職

場体験で、土木工事を主要事業としている会社へ伺い、水がいかに僕たちの生活に関わっているのかを知つた。そして、ダムが川を流れる水の量を調整する「治水」

と、ダムに溜まつた水を水力発電や工業用水などに利

用する「利水」があることなど、本当に数多くのことを実際にダムへと赴き自分の目で見ることができた。

僕が住む盛岡市には、「中津川」という、市内中心部を流れる一級河川がある。僕が小学生のときには、よく中津川に行き、友達と釣りを楽しんだ。小学校の行事で浅瀬の川に入り、昆虫採集などをした思い出もあ

る。

この職場体験では、治水と利水、上水道といった多くの役割がある、いわゆる多目的ダムである綱取ダムを訪れた。担当の方の説明から、この綱取ダムの下流に僕たちの遊んでいた中津川があるということを知り、衝撃を受けた。小学生のとき僕たちが遊んだあの中津川と綱取ダムは、人の足では到底往復ができないほどに離れていたからだ。

ダムでは、川の氾濫が起きないように水を貯蓄する「洪水調節」が行われている。僕は、盛岡に大雨が降った日、「中津川が氾濫している」とニュースで見たことがない。これが今では当たり前に思えるけれど、本来「大雨が降つても近くの川が氾濫することはないだろう」と、慢心することはできない。僕たちが今、水と共に生きている以上、水の良さと同じくらいに、怖さとも向き合わなければならぬはずだからだ。

水は、農作物を育てさせ、飲料水の供給源となり、人々に恵みを与えてくれる。その反面、水はその姿を

自在に変え、恵みになることもあるれば、災いとなることもある。勢いの激しい流水は、ダムによつて流れが抑えられ、自然の恵みとなる。だが、ダムの機能にも限界はある。大雨により河川の水位が上昇し、ダムが貯水できる量に限界を迎へれば、いつでも氾濫する危険性をはらんでいる。

昨年の七月、秋田県や山形県を中心とした豪雨により、両県合わせて五か所の堤防が決壊し、秋田県内だけでも九河川で氾濫が起きている。この大雨の影響で合計二人が死亡、三人が行方不明となつた。

水は人に恵みを与えてくれる。だが人に災いを与えることだってある。水の動きを人間が完全に管理することは不可能であることを忘れてはならない。水が明日、僕たちに大きな災いを起こす可能性だつてある。

災いばかりに目がいくが、命と水は切つても切れない関係にある。生きるために水が必要であり、現在当たり前に僕たちが水道から水を飲むことができ、水道の水で手を洗うことができるのも、水の恵みの

おかげだ。そして、水の資源を守り、僕たちに供給してくれる人が大勢いることを絶対に忘れたくないし、忘れてほしくない。当たり前だと思っている生活にも、今まで多くの水に関わってきた人々の努力と知恵、そして「未来をもつと良くしたい」という善意が隠れている。

今日という日だつて、その善意で世界は満たされているはずだ。いろいろな形で、僕たちはそれを受け取つて生きている。生活の一部にしている。「一番身近である」とも言える、そんな水だからこそ、水を生かし、水の恵みに生きているこの世界を大切にしたい。水に関わる仕事に従事する方々に、直接感謝は伝えられなくとも、「水の無駄遣いを減らすこと」はできる。この世界をより良くしたい気持ちは、僕たちも同じだ。改めて「水とは何か」自分自身に問うてみよう。僕には、世界を繋ぐ唯一の架橋のように思えてきた。

優秀賞

(岩手県知事賞)

水資源に感謝して

盛岡中央高等学校附属中学校

二年 岩館 和花

母は水の出しつぱなしをとても注意する。また私の家では温水器を使ってお湯を作っているので、シャワーを使いすぎるともう一度お湯を作る必要があり、怒られる。なぜかと思い、母に話を聞いてみた。すると母が三ヶ月ホームステイしていたオーストラリアでは水不足が深刻だった為、帰国後、節水を心がけていると言われた。そして、世界では水道水を美味しく飲めない国が多いことも聞いた。

母はホームステイに行く前に事前に調べた際、オーストラリアは水不足で、「シャワーは五分、洗濯は週に一回、食器を洗剤で洗つても水で流さず拭くだけ」と知り、驚きながらオーストラリアを訪れたそうだ。ホームステイ先に行くと「オーストラリアは水が貴重だから大切に使ってね。」と言わされたが、シャワーも時間

を設けられることはなく、食器は洗剤で洗つて水道水で流していたのでとても安心したと話していた。ただ、洗濯は週一回しかなかつたそうだ。日本にいる時よりも何倍も大事に水を使つたと聞いた。私は普段、湯船につかることはもちろん、洗濯をしたり食器を洗つたりすることできえもとても貴重なことだと感じた。

水が貴重なオーストラリアはもちろんペットボトルの水は高いと一本約五ドル。日本円にすると約五百円もする。オーストラリアの水道水は飲むことはできるが、常温で飲むとあまりおいしくなかつたという。日本では水道水を安全に美味しく飲める。またペットボトル一本の水の値段も二桁台だ。これは当然のことではなく、恵まれた環境であると実感させられた。

私が一番驚いたのは、オーストラリアには水の使用制限があり、水不足の時五段階のレベルに分けられた節水制限があることだ。例えばホースで庭に水やりをしたり、洗車すると水の使用違反になる。ウォーターパトロールにその制限を破つてしているところが見つかる

と、罰金を払う必要があるそうだ。また、街中に水の制限レベルの看板があり、節水を呼びかけていたとも話していた。

私の家では何度かホームステイを受け入れたことがある。しかし私の母が「湯船に入つてもいいよ。」と説明しても、どの国の人も湯船に入らず、シャワーのみ。

そして十五分ほどで出てくる。湯船につかるのは日本だけの習慣なものもあるかもしれないが、母国での水の使い方を日本でも行つていいのだろう。毎日湯船につかれる日本はそれだけ水資源が豊かである証拠かもしれない。私達ももつと水の大切さを意識し、無駄使いを減らしていく必要がある。

日本では水道の水が出てくるのが当たり前だ。しかし、世界には水道がない国もある。最近、水道管や下水管の老朽化で事故があつたり、水道水の値上げをする自治体が多くなつたりしてきた。今までの水道から水が出て使えるのが当たり前だという考え方を変えていかなければならない。発展途上国では水を入れる

ことも難しく、長い間歩いて決して安全ではない水を汲んで飲んでいる人達もいる。日本でも水道から安全で美味しい水が出てくる日常が普通ではなくなる日が来るかもしれない。今は水資源が豊富な私たちもより一層水を大切にしていくべきだ。私も水を大事にし、無駄にしないよう心がけ、生活していこうと思う。

優秀賞

(岩手県知事賞)

水の恵みに思う

岩手県立一関第一高等学校附属中学校

二年 佐々木 果歩

田んぼに水が張られるようになつた。夕暮れ時の空の輝きが一面に映し出された水面。そのきれいな風景が私の家の周りに広がる季節を迎えた。豊かな水の恵みが今年はお米の豊作をもたらしてほしいと思う。

私が水と聞いて最初に思い浮かべたのは水田と米だ。今は令和の米騒動が話題になつていて。お米の価格が高騰しているのだ。お米の四月七日～四月十三日までの平均価格は、約二〇〇〇円から十四週連続で値上がりし、約四三〇〇円にまで上がつてきている。

お米を育てるために必要なのが水だ。私の家では家族分だけだが、お米を育てている。ある日の食卓でお父さんに米作りについて聞いてみた。何気に「田んぼの水つて溜まるまでにどれくらいかかるの?」と聞い

た。すると、「ゆっくり水を入れるから八時間以上はかかるよ。早めに入れると栄養分が流れ出てしまうんだ。」と教えてくれた。やはり、水は米作りにおいて重大な役割をしているらしい。国内有数のお米の生産地である新潟の二〇二四年の降水量は平年と比べて六パーセントほど少なかつたそうだ。すると、水が不足して米の品質が悪くなつてしまふ。稻の成長期に水が行き届かない、玄米を精米する過程でお米が割れやすくなつてしまふそうだ。確かに先日、我が家でお米を研いだときに違和感を覚えたことがあつた。いつもと違つてお米が割れやすく、いつも通りの力で研いでいると直ぐに二つに割れてしまつたのだ。その日のご飯はあまり美味しく食べることができず、家族と「なんだか今日はお米が水っぽいね。」などと話したことがある。

どうして稻作をはじめとする農業に水不足が起こるのかに興味をもち、調べてみることにした。その原因の一つに気候変動による気温上昇があることがわかつ

た。地球温暖化の影響により水分が蒸発しやすくなり、空気が乾燥するようになることが原因らしい。すると雨粒が降つてくる前に蒸発してしまい、雨があまり降らなくなってしまう。すると、雨が降らなくなる土地と雨が降りすぎてしまう土地の二極化が進むそうだ。また、温暖化によつて風や海流の流れが変わつてしまい、生態系にも影響を及ぼし、生息地の変化に伴いさらに環境の変化が加速するなど、様々な影響を及ぼしている。

水は気候変動の影響を受けやすく、水不足は米の育ちだけではなく私達の生活にも影響している事がわかつた。他にも水が不足している事を感じた出来事があった。大船渡の山林火災だ。

この火災の原因の一つに野焼きが指摘されていた。

普段、道を歩くとよく農業の藁などを焼いているのを目にする。いつもは無事に焼き終わり、灰を肥料として利用して今年も良い作物を育てようとするのだ。しかし、その時期は雨が少なく極端に乾燥していたらし

い。そのせいで乾燥した周りの草や木に引火し燃え広がつてしまつたのだろう。普段、大船渡市は降水量が多い地域であるため、野焼きによる火事は珍しいものだ。今まで当然に出来ていたことでも水がないだけで大事につながるのが衝撃的であった。また、農業などに多く関わっている水は、私達の安全な日常を支えてくれているのだと実感することが出来た。

以上のことから私はこれから水を守る活動にもっと目を向けてみようと思った。まずは、節水、油汚れは拭いてから食器を洗うなどして水を汚さない、米の研ぎ汁を食器洗いに使うなど水の再利用等、自分ができることから始めてみようと思う。

豊かな生活も安全な日常も、こうした日々の心がけにより守られるものではないだろうか。これからは水がもたらす恩恵に感謝しながら過ごしてゆきたい。

優秀賞

(岩手県知事賞)

蛇口、その向こうには

岩手県立一関第一高等学校附属中学校

二年 佐藤 由実

私の町の水道は大丈夫だろうかと不安になつた。

先日のニュースに驚いた。群馬県で起きた水道水による食中毒だ。翌日には京都府で発生した冠水。水管の老朽化が原因だという。水道が全国に普及したのは一九六〇年代、高度経済成長期と呼ばれる時期だ。

その時からは今から六〇年以上が過ぎ、水管の老朽化は京都府に限らず全国でも起こり得る問題かもしれない。

父は酒造りをしている。冬になると、もろみの世話ををする父の姿を見て私は育つた。酒樽を前に黙々と向き合う父。藏いっぱいに香るもろみの甘い香り。過ぎていく時間。春には味わい豊かでスッキリとした清酒が誕生する。酒樽で私は、酒にはどれだけ水が重要で必要不可欠なものかをよく教えられてきた。しかし、

どのような水を酒造りに使っているのか私は知らなかつた。

ある日、夕飯のときに「うちの酒はどういう水を使っているの。」と聞いたのだが、意外にも「大体は水道水だよ。」と返されて、純粹に驚いた。なぜならよくペットボトルのお茶などには「すべて名水使用」と、大きく明記されているからで、ただの普通の水道水を大部分使つている、というのに驚いてしまつたのだ。また、「酒は必ず天然水や地下水」と勝手に思いこんでいた部分もあつた。「水道水で美味しい酒が造られるの。」そう口にしたら「水道水は安全だし、軟水だから酒造りにも適しているんだよ。酒造りに使えるほど、この地域の水道水はきれいで美味しいからね。」と父は優しく教えてくれた。

なるほど、水道水は飲水としても、「地域を支える貴重な資源」もあるのだ。それと同時に水道水は安全で、手に入りやすい。気軽な分、私は水道水の大切さや重要性を見落としてしまつたかもしれない。

日本の水道水の安全性は世界でもトップクラスだと言われている。なぜ私達は美味しい水道水を飲めるのだろうか。それは日本の水道水は美味しさにこだわって水質を管理している特性があるからだ。水道水について調べていくと、地域ごとにきれいな水源から汲み上げ、水質を徹底的に管理しているということが分かった。美味しい水をいつでも気軽に飲めるということのありがたさを改めて実感した。

しかし、蛇口をひねつてすぐに、安全で美味しい水が出てくる国は限られている。この春休みに、私は家族で海外に旅行に行つたのだが、その国は安全に水道水が飲めない国だった。このとき、日本の水道水の安全性にも気付かされた。

私が住んでいる一関市の水道水はどうだろうか。水道の向こうには東北地方最大の河川である、北上川の支川の磐井川につながつていて、とても美味しい水が飲める。私の地域が織りなしたその地域だけの水道水を、私はただの水道水として考えていたことに恥ずか

しく思った。先人が、長い歳月を経て、守り受け継いできた安全で美味しい水道水。その水道水が今、様々な問題に直面している。水管の老朽化、漏水事故、地方の過疎化、維持費の上昇、赤字経営の進行、職員の高齢化、人不足など、懸念は尽きない。

ここ最近は私達の生活で自然災害が頻発している。豪雨、大規模火災、地震、津波。水は水だけの問題ではなく、森は森だけの問題ではない。水道も私達の生活も自然の大きな循環の中の一部分だ。そのことを私達は意識した生活をしなければならないと私は気づいた。

蛇口をひねると安全な水。これをまだ私達は当たり前のことだと言えるのだろうか。父の造る酒がなんだか今日はとても大切なものに思えてきた。

優秀賞

(岩手県知事賞)

世界のきれいな水つて平等?

金ヶ崎町立金ヶ崎中学校

二年 高橋 楓英

皆さんのお家では、今朝、蛇口をひねって水が出ましたか。私は、蛇口から安全で安心な水が出ることを日頃から当たり前に思っていました。ですから、水を使うたびに、水の大切さを意識することは少なかつたです。水はいつも自分の身近にあるものですが、この作文を書くまで水についてじっくりと考えたことはありませんでした。

私は、アフリカの人々が茶色くよごれた水を飲んで

いるのを見たことがあります。きっと、生きていいくためにはよごれても飲むしかないのでしょうか。水を飲むことで命を落とす人が多くいて、今は、世界の半数の人々しか、きれいな水を飲むことができないようでした。

私の父は、下水処理の仕事をしています。下水処理

場には手を洗う水、食器を洗う水、もちろん、日頃から使っているトイレの水も流れています。それらのよごれを取り除き、消毒してきれいな水にしてから河川に放流しているそうです。しかし、コロナウイルスが流行した頃から、マスクやハンカチなど、いろいろな物が流れてくるようになつたと父が言つていました。それらは機械の故障の原因となり、下水処理に大きな影響を与えていたそうです。水は流して終わりではなく、一人ひとりが意識することできれいにできます。水を安心して飲める、安心して使えるのは、地道だけれどこのような大事な仕事をしてくれる人がいるからこそだと、私は思います。

ですが、今、多くの人々が水についての意識が低いと言われています。それは、水不足だと感じた経験が少なくて、意識が薄いためだと思います。埼玉県で起きた道路陥没事故では、百二十万の人々が水道と下水道の使用を二週間、自粛しました。私は、父の言葉を思い出しました。

「下水道が使えないと水道も使えない。」

日頃からきれいな水が出てくるのは、決して当たり前ではなかつたのです。

よごれた水しかないアフリカなどの国々では、普段からきれいな水が当たり前ではありません。お腹をこわしたり病気になつたりする危険に、毎日さらされているのです。だからこそ、安全で安心な生活ができる私たちが、水の大切さを意識しなければいけないのだと思います。

はできません。でも、日々の暮らしから安心して水を飲めるわけを考え、使っていくことが大切だと思います。そして、水をよごさないように、川や海などにゴミを捨てないことや洗濯などの洗剤の量を適量にすることなどが大切です。それが、SDGsを守ることや水問題を解決することにもつながります。私たち一人ひとりが、水問題について意識していき、世界の水質汚濁を解決していかなければなりません。

私は水のことを調べ、自分の水についての考え方を変えなければならぬと思いました。水は、日頃からきれいなまで出てくるとは限らないし、必ず水が出てくるとも限らないのです。余計なものを流さないことや節水など、私でもできることにも心がけたいです。世界には、水を安心して飲める国があると知りました。しかし、いまだに水を安心して飲めない国もたくさんあるのだと知りました。私たちは、アフリカや水がよごれている国などに行き、水をきれいにすること

佳作

(岩手県知事賞)

水不足問題について

盛岡中央高等学校附属中学校

二年 井上 奈子

私は、世界の水不足問題について考える。私たちが

住んでいる日本では当たり前のようにある水。水を不自由なく使っている国は日本を含め、世界でも十五か国程度だと言われている。それに対し、水不足に困っている国は三十二か国あり、世界総人口の四十パーセント以上にあたる三十六億人であり、今後も上昇すると予測されている。また、国際連合食料農業機関は世界人口の三分の二が水不足に陥る可能性があると示唆している。つまり、水不足は世界的な問題であるといえる。

今まで、私は水不足をそれほど深刻な問題だとは思つていなかつたため、「水」という存在を意識して使つていなかつた。お風呂ではシャワーを出したままにしたり、手を洗う時も水を出しながら洗つたりしている。

また、コップに水を入れるが、飲み残して捨てることがある。私は水があるのが当たり前だと思つていていため、これらの行動を無意識に日常生活の中で行つている。しかし、私はこれらの行動を見直したほうが良いのではないかと思った。

水不足には主に二つの原因がある。それは、「人口増加に伴う産業発展」と「気候変動」だ。「人口増加に伴う産業発展」の原因として、人口が増えるほど水の使用量が増加し、水の需要量に対して不足の事態が悪化するということが挙げられる。また、「気候変動」の結果、地球温暖化による砂漠化や大雨による水害などが引き起こされている。

では、日本での水不足はどうなのか。首都圏を例に考えてみる。首都圏の水不足の原因是、人口の増加や生活水準の向上による水の使用量の増加、気候変動によると水の再利用の非効率化などが挙げられる。また、雨だけに限らず、気温上昇による積雪の減少や雪解けの早まりにより、春期・夏期の水源量を減らしてしま

つて いる。その解決策として、河川用途転換をし、農業や工業用水を水道用水に再利用している。また、二〇二〇年の東京オリンピック・パラリンピックの際には、関係機関の協力のもと「東京オリンピック・パラ

リンピック渴水対策協議会」を設置した。一九六四年の東京オリンピック・パラリンピックの際、記録的な水不足が発生し、都内は「東京砂漠」と言われるほど水不足状態であった。それは、水使用量の大幅な増加と雨不足によつて引き起こされた。そのため、二〇二〇年の東京オリンピック・パラリンピックの際は、渴水対策として、水を多く溜めたり、下水処理水を活用したりするなどのことを行い、結果として首都圏の一都六県に安定した水の供給をすることができた。

このように世界には水不足という大きな課題がある。だからこそ、私は普段の生活の中で、水を無駄にしないよう意識して使い、水を大切にする気持ちを持つことが大切だと思った。しかし、水不足は私一人が水に対する意識を変えて、解決されるような課題では

ない。だからこそ、世界中の人々が水不足について理解し、水を大切にしていくことが必要不可欠と考えた。

佳作

(岩手県知事賞)

北上川と水質汚濁

盛岡中央高等学校附属中学校

二年 川村 帆乃佳

私は電車を使つて通学していて、毎朝北上川を上から見ている。私がいつも見ている北上川は、飲料水にそのまま使われても違和感がないほど澄んでいる。よく魚釣りをしている人を見かけるので、綺麗な水だということが分かる。しかし、北上川のことを調べているうちに、昔の北上川はとても汚れていて、「死んだ川」と言われるまでになっていたことを知った。私はとても驚いた。

北上川が汚れてしまった原因は大きく三つある。一つ目は、家庭からの排水やゴミのポイ捨てだ。ポイ捨てされているゴミを調べたところ、大人も子供もゴミを捨てていることが分かったそうだ。土手に捨てられたたくさんのタイヤの写真が一番衝撃だった。二つ目は、旧松尾鉱山からの坑廃水だ。松尾鉱山で硫黄の採

掘が進むにつれ、坑廃水による水質汚濁は悪化していった。閉山後も坑廃水の流出は止まらず、大きな社会問題となつた。北上川は魚類の生息できない川となり、一時その影響は宮城県境にまで及んだそうだ。三つ目は、北上市工業団地の工場から流出した重油だ。平成十一年十一月に北上工業団地の工場から、北上川水系の飯豊川に重油が流れ出し、住民や工場などに大きな被害を与えた。

私はこの三つを調べて少し怖くなつた。なぜなら、北上川を汚した原因は全て自分と同じ人間なのだ。当然といえば当然なのかもしれないが、人間のせいで自然が壊されることはあつてはならないことだ。次に私は、ここまで汚くなつた北上川がどのように綺麗になつたのかが知りたくなり、調べることにした。

北上川がよみがえったのは、旧松尾鉱山跡地に新たな中和処理施設を建てたからだ。北上川の清流化を望む声が高まり、補助を受けて、九十三億円の建設費を費やして「旧松尾鉱山新中和処理施設」が完成した。

坑廃水処理が開始され、現在までの三十年以上にわたり、三百六十五日二十四時間休むことなく坑廃水が処理されている。旧松尾鉱山からは今でも強酸性の坑廃水が流出している。現在、年約七億円の事業費を坑廻水処理等に費やしており、清流を保つためには、二十二世紀になつても継続する必要はあると見込まれている。このように、北上川を綺麗に保つためには多額な費用がかかつてしまうことが分かる。

北上川では、こうした大きな施設を主にしてよみがえった。日本だけでなく、世界にはまだまだ汚くなつてしまつたままの川や湖はたくさんある。この川たちはなにか施設などができるとよみがえることはできないのだろうか。私はそうは思わない。川が汚れる原因は、工場などだけでなく、人が持ち込んだゴミや生活排水というのもあるからだ。ゴミを捨てないのは当然だとして、もしゴミがポイ捨てしてあつたら拾つてゴミ箱に捨てるとか、排水口に残飯を流さないなど、できることは山ほどある。完全に綺麗にできなくとも、

これを一人一人が意識し、広まつていつたら、少しづつでも回復はできる。そしてそれは巡り巡つて世界中にある水をよみがえらせることにつながると思う。美しい景色を残していくためにも、一人一人ができることをやっていこうと心に決めた。

佳作

(岩手県知事賞)

雨と人間の関係

盛岡中央高等学校附属中学校

二年 齊藤 和輝

私たち人間は、たくさんの生き物にとって大切な存在です。現代も雨は農作物の成長、工業用水などに役立っています。では、昔の人々にとって、雨はどのような存在だったのでしょうか。

昔の人々は雨を自然の恵みとして喜び、感謝していました。しかし、恵み以外に恐怖、再生などの意味も込められていました。恵みには「雨は生活に必要な水を確保し、作物を育てる。」恐怖には「雨は災害を引き起こす。」再生には「雨は放つても降り、止む。」畏敬には「雨は人間の手が及ばないところにある。」このように深い意味がそれぞれに込められています。また、雨の降り方によって様々な名前が付けられていきました。例えば、白雨、肘笠雨、鬼雨などがあり

ます。

次に、昔の人々の雨への対策についてです。昔の家は屋根の瓦の隙間や外壁の隙間から雨水が侵入する恐れがありました。そのため、家にはたくさんの工夫が凝らされていました。雨漏りへの工夫として、土や杉板などを設置し、雨水を吸収させる方法があります。雨の侵入を防ぐ工夫としては、屋根の軒先をできるだけ深くする、ひさしを取り付けるなどがありました。

また、日本家屋では西洋建築に比べて壁が少ない造りになっていたため、部屋同士を隔てる間地切りの役割を果たしている障子やふすまをすべて開け放つことで、風の通り道を作つて熱や湿気を逃がす工夫もされました。そして、服装などの着用していしたものについてです。昔の人は蓑やわらじ、下駄などを着用して対策をしていました。蓑とは稻藁やイラクサ、麻などの植物を編んで作られた外衣です。工夫としては、しごき帶を上手く活用していたようです。

では、現代の人々にとってはどうな存在なので

しようか。

現代も昔と同じく農作物の成長、生活に必要な水の確保に役立っています。また、雨には、リラックス効果、視覚効果などさまざまな印象があります。雨の日は、雨音の心地良いリズムが心を落ち着かせたり、マイナスイオンによつて心身がリラックスすることができます。雨の日には照度が減り、目に入る光が優しく見えることから視覚効果の印象もあります。また、現代は映画などにも雨は応用されています。苦しみや悲しみ、浄化や再生のシンボルとして音や情景として使われることが多いです。

しかし、欠点もたくさんあります。大きなものとして「水害」です。台風や大雨などの大量の降雨、強風や気圧などが原因です。洪水や高潮、浸水、土石流、山崩れなどが含まれます。他に、食中毒の発生、洗濯物の生乾き、病気の発生などがあります。また、雨水に工場や自動車から排出された大気汚染物質が取り込まれて酸性雨となり、河川や土壤を酸性化して、生態

系に悪影響を与えるなどの問題もあります。

水害の対策として、自助、共助、公助の意識・ハザードマップや避難場所の記憶などがあります。

私は雨に対して良い印象を持っています。雨音を聞いたり、雨に当たるととても心がリラックスするからです。しかし、降りすぎてしまうと悪影響を及ぼしてしまいます。雨は適度な量であれば私たちに恵みを与えてくれる存在だと分かりました。

「雨」と「人間」は昔から深く関わっていることを知りました。水害や環境汚染につながってしまうなど悪い点もあることが分かりました。この経験を通して、水への考え方を改めることができました。これからも水をして生活していきたいです。

佳作

(岩手県知事賞)

水について考える

盛岡市立見前中学校

二年 藤井 心瑚

水は、身近にある、人間や他の生き物が生きるうえで不可欠なものです。実際、人体の六十パーセントは水でできていると言いますし、生活でも、飲み水、トイレ、洗濯、風呂などのいろいろな場面で水を使用しています。普段はあまり気にかけることは無いですが、工場などでも水を使っています。そんな生活に欠かせない水ですが、時には地震によって津波となったり、大雨によって土砂となり、人間の生活を脅かすこともあります。加えて自然災害だけでなく、過去には産業や工業が発展するにつれて、工場や鉱山からの廃液が川や海に流れ、水中で暮らす生物が生息できなくなってしまったり、人間が摂取することで、人体に多大な影響を与えたいたりするなど、人工的な場合があります。

そんな、身近な存在である水ですが、私たちの家庭で使用するきれいな水や、飲料水には、たくさんの時間と電力が掛かっています。そこで私は、節水に取り組むべきだと考えました。節水することで、家庭での水道料金も安くなりますし、環境にも優しく、また、下水を処理する際に使われる電力などを少しでも減らすことができます。節水は、節電をするよりも簡単にできます。例えば、歯磨きをするときはコップを使う、シャワーをこまめに止める、トイレで流すときに大と小のレバーを使いわける、食器の油汚れを拭いてから洗うなど、生活の至る所で節水をすることができます。シャワーの例で、二十分間水を出しつぱなしにすることで、その半分の十分間、シャワーを使用する場合とでは、年間二万円以上の節約になるといった記事もあります。

日本の水による公害というと、足尾鉱毒事件を思い浮かべる方も多いと思います。けれど、岩手県を流れ

る北上川でも、過去に同じようなことがありました。

現在では、そんなことが無かつたかのように、生活用水として私たちの生活を支えています。一体、何がかったのでしょうか。それは、一九八一年に完成した、「旧松尾鉱山新中和処理施設」に関係があります。

施設の名前にある「松尾鉱山」は、北上川の支流の一つである赤川の上流に位置しています。一八八二年

には硫黄の大露頭が発見され、一九〇一年には開発が進められました。一九一四年には、本格的な操業が始まり、日本の食糧増産や化学工業の成長に大きく貢献しました。しばらくして一九五八年頃、主要な取引先の化学繊維業界の不振を発端とし、経営状態は悪化していました。さらに、石油の精製過程で得られる回収硫黄が市場に出回るようになつたことが決定的な打撃となり、一九七二年に、松尾鉱山は閉鉱しました。

ですが、採掘により排出される坑廃水による水質汚濁は止まらず、大きな社会問題になりました。そして、

一九八一年。とうとう、松尾鉱山跡地に「旧松尾鉱山新中和処理施設」が完成しました。一九八二年四月には、坑廃水処理が開始され、北上川は清らかな流れを取りもどしました。それから現在まで四十年以上が経過していますが、北上川は今でも、私たちの生活を支える水として、今日もたくさんの人のために使われています。

水は、私たちの生活に深く関わり合い、時には、甚大な被害をもたらすこともあります。完全にその縁を断ち切ることはできません。それだからこそ、もつと身近に水を感じ、守り続けていくことが大切なのでしょうか。

佳作

(岩手県知事賞)

水の大切さと私たちの未来

金ヶ崎町立金ヶ崎中学校

二年 松澤 美咲

水は地球上の生命にとって不可欠な存在です。地球上のすべての生命体は水に依存しており、その重要性は古代から現代に至るまで変わることはありません。水の持つ歴史、文化、そして私たちの日常生活における役割について考えてみたいと思います。

まず、水の歴史を振り返ると、古代文明の発展において水は中心的な役割を果たしてきました。紀元前三

千五百年頃、メソポタミアのシュメール文明がおこった際、デイングリス川の近くで農業が始まりました。この川は灌漑のための水源として利用され、農業の発展を促しました。水の恵みを受けたことで、人口が増え、都市が形成されていったのです。

また、古代エジプトではナイル川が重要な役割を果しました。この川は、定期的に氾濫し、その土壌を

肥沃にしました。このため、エジプト人は農業を営み、余剰生産物を持つようになり、交易や文化の発展へとつながりました。水はただの資源ではなく、文明の基盤そのものだったと気がつきました。

中世に入ると、ヨーロッパの各地で水路やダムが建設され、都市の発展につながりました。特に、ローマ時代には水道が整備され、都市に清潔な水を供給するシステムが確立されました。これにより衛生状態が向上し、疾病の蔓延を防ぐことにもつながりました。このように、水は人々の健康や生活環境に大きな影響を与えてきました。

ある友人が、干ばつに苦しむ地域の人々の話をしてくれました。その地域では、水の確保が非常に難しく、毎日長い距離を歩かなければならぬそうです。この話を聞いて、水のありがたさや、水がもたらす生活の質について深く考えさせられました。そのため、食器を洗うときは、水を流しつぶなしにせず、まとめて洗うと家族で決め、実行しました。

現在、私たちが直面している水問題は、過去の歴史から学ぶべき教えを含んでいます。気候変動や都市の発展により、水の確保が難しくなってきています。特に、乾燥地域や貧困国では、水の不足が深刻な問題となつておおり、国際的な協力が求められています。

私たち一人ひとりが、水の大切さを理解し、無駄な使い方を減らす努力をすることが重要です。また、地域社会や国際社会での水資源の管理や保護活動にも積極的に参加することが求められます。水は地球上の生命を支える大切な資源であり、その未来を守るために行動することが必要です。

最後に、水は私たちの生活の中で常に求められています。飲み水、料理、洗濯などがあります。私の住む金ヶ崎町には黒沢川せせらぎ公園があり、あらゆる面で水は私たちを支えてくれています。水の歴史を振り返ると、その重要性を再確認できるとともに、これらの未来に向けて、私たちがどのように水と向き合っていくべきなのか考えさせられます。

水は、単なる液体ではなく、人類の歴史と文化を形成してきた重要な要素です。水を大切にし、持続可能な利用を心がけることが、未来の世代への責任であると感じます。水の重要性を再確認し、日々の中では、その恵みに感謝しながら過ごしていきたいと思います。水の歴史を知ることで、私たちの生活がどれほど水に支えられているかを理解し、より良い未来を築くための一歩を踏み出すことができる信じています。